

中学校「外国語(英語)科」における「外国語表現の能力」に焦点を当てた各学年の学習到達目標(例)(任意単元の指導目標を含む)

平成26年3月 岐阜県教育委員会

外国語の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

話すこと(英語)の目標

初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

書くこと(英語)の目標

英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

第3学年の目標

やりとりの要素が強い言語活動における目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・客観的な事実や様々な考え等に基づいた自分の意見や主張とその根拠等を(内容)
- ・対話がより継続・発展するよう、聞き手の理解に応じて他の表現で言い直すなどの工夫をしながら(表現方法)
- ・中心となる話題に関して5往復程度の対話で(程度)話すことができる。

Lesson2

仲間を紹介する記事づくりに向けてインタビューする活動において、好きなことや興味のあることについて、いつから好きなのか、なぜ好きなのかなど、現在完了の継続用法を含んだ英文を用いて質問したり説明したり、必要に応じて繰り返したり他の表現で言い換えたりして、5~7往復程度の対話を行うことができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した発話例\)](#)

第3学年の目標

発表の要素が強い言語活動における目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・客観的な事実や様々な考え等に基づいた自分の意見や主張とその根拠等を(内容)
- ・聞き手の理解に応じて、繰り返したり、強調したりしながら(表現方法)
- ・中心となる話題に関して10文程度の英文で(程度)話すことができる。

Unit 5

あるトピックに対して、自分の意見や主張とその根拠等を、相手の理解の状況を確認し、それに応じてジェスチャーや具体物等の非言語手段を活用しながら、分詞の後置修飾等の言語材料を用いて、10文程度の英文で話すことができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した発話例\)](#)

第3学年の目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・客観的な事実や様々な考え等に基づいた自分の意見や主張とその根拠等を(内容)
- ・文章全体の構成の中で、出だしや結び、具体例、対比、問いかけの他、根拠となるデータや事実、予想される反論とそれに対する考えなどの文を効果的に使い(表現方法)
- ・中心となる話題に関して10文程度の正しい英文で(程度)書くことができる。

Unit 4

自分の思い出の物について、自分の考えやその考えをもつに至った理由等を、文章全体の構成に留意したり、不定詞等の既習表現を用いて、具体的なエピソードやそれから学んだことを示しながら、10文程度の正しい英文で書くことができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した筆記例\)](#)

第2学年の目標

やりとりの要素が強い言語活動における目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・自分の経験や他教科等で学習したことに基づいた自分の考えや気持ちとその理由、また詳しい様子や特徴を表した事実等を(内容)
- ・分からない点を尋ねたり答えたりするとともに、相手の発話内容とつながりのある受け答えに留意しながら(表現方法)
- ・中心となる話題に関して4往復程度の対話で(程度)話すことができる。

Unit 7

携帯電話を売り込む活動を通して、携帯電話の特徴や好みなどについて、自分から話題を提供したり、相手の発話に関する具体的な情報を付け加えたりしながら、比較級を正しく用いて、4往復程度の対話を行うことができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した発話例\)](#)

第2学年の目標

発表の要素が強い言語活動における目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・自分の経験や他教科等で学習したことに基づいた自分の考えや気持ちとその理由、また詳しい様子や特徴を表した事実等を(内容)
- ・基本的な音声の特徴の他、表情やジェスチャー、具体物等の非言語手段を含め、聞き手によりよく伝わる工夫をしながら(表現方法)
- ・中心となる話題に関して7文程度の英文で(程度)話すことができる。

Multi Plus 1

過去形や未来形、勧誘、質問等の表現を用いて、自分自身の身近な話題について、自分の考え、気持ちとその理由、詳しい様子や特徴を表した事実等を、適切な声量で、表情、視線、強勢、イントネーション等を工夫して、7文程度のまとまりのある英文でスピーチすることができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した発話例\)](#)

第2学年の目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・自分の経験や他教科等で学習したことに基づいた自分の考えや気持ちとその理由、また詳しい様子や特徴を表した事実等を(内容)
- ・内容のまとまりに留意しながら、出だしや結び、具体例、対比、問いかけなどの文を効果的に使い(表現方法)
- ・中心となる話題に関して7文程度の正しい英文で(程度)書くことができる。

Lesson 5

将来の夢についてのスピーチ原稿を書く活動において、自分の考えや気持ちとその理由、その夢を抱きかけたとなった具体的な体験等を、不定詞を用いて、文と文の順序や相互の関連に注意を払いながら、一貫性のある文章を7文程度の正しい英文で書くことができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した筆記例\)](#)

第1学年の目標

やりとりの要素が強い言語活動における目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・自分の考えや気持ち、身の回りの出来事等を(内容)
- ・聞き手を意識して強調したり、繰り返したり、新しい情報を付け加えたりして対話を継続・発展させながら(表現方法)
- ・中心となる話題に関して3往復程度の対話で(程度)話すことができる。

Lesson 5

be動詞、一般動詞の質問文や、疑問詞を含む疑問文等を用いて、好きな物を話題に、好き嫌いや興味のあることを質問して詳しく聞き出したり、相手の質問に新しい情報を加えて応答したりして対話を継続・発展させながら、2~3往復程度のインタビューの対話を行うことができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した発話例\)](#)

第1学年の目標

発表の要素が強い言語活動における目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・自分の考えや気持ち、身の回りの出来事等を(内容)
- ・適切な声量で、基本的な音声の特徴をとらえながら(表現方法)
- ・中心となる話題に関して5文程度の英文で(程度)話すことができる。

Unit 10

自分のおすすめの旅行先について、自分が魅力を感じる特徴や自分の気持ちを、助動詞can等を用いながら、表情、視線、声量、適切な身振りなどを工夫して、5文程度の英文で話すことができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した発話例\)](#)

第1学年の目標

- ・自分自身や家庭、学校、自分を取り巻く社会等、身近な話題について(話題)
- ・自分の考えや気持ち、身の回りの出来事等を(内容)
- ・文字や符号の識別、語と語の区切りなどに注意するとともに、正しい語順や文同士の適切なつながりに留意しながら(表現方法)
- ・中心となる話題に関して5文程度の正しい英文で(程度)書くことができる。

Unit 11

過去形を用いて、ALTに1年間の学校生活で一番の思い出について、出来事やその時の気持ちが伝わるように文同士の適切なつながりに留意しながら、5文程度の正しい英文で手紙(絵はがき)を書くことができる。

[\(単元指導計画\)](#) [\(本時の展開\)](#) [\(目標を具現した筆記例\)](#)